

相澤 栄子

学校名：横浜市立上飯田中学校 担当教科：英語科

### 1. 今回のカンボジア研修における目的やねらい

上飯田中学校ではインドシナ三国にルーツをもつ生徒が多く在籍する。赴任1年目、外国につながる生徒の指導で悪戦苦闘をし、出口が見えない時があった。そんなある日、彼らの置かれている現状を理解していなかったことに気づき、自分自身の彼らに対する関わり方が変わり始めた。今回、彼らの母国の一つであるカンボジアを訪問し、彼らのバックグラウンドを体感することで、さらに生徒・保護者・地域に対する理解を深め、今後の教育活動に活かしていくことが大きな目的である。

発展途上国として各国から様々な支援が入っているが、実際にどのような支援が必要で、今自分達ができることを生徒と共に考えたい。またカンボジアで活動するNGOを生徒に紹介し、将来国際社会で活躍したいと願っている生徒の育成を図りたい。

### 2. 目的やねらいの達成度

カンボジアの都市部(プノンペン)、農村部(スバイリエン)、世界遺産(シェムリアップ)を訪問し、歴史・文化・内戦の傷跡・現在の課題・支援の在り方について理解を深めることができた。日本に渡った難民がどのようなものを背負いながら日本で生活しているのか、彼らの苦悩や母国に対する思いの一片を知ることができ、彼らに寄り添っていくための理解を深めることができた。

「カンボジアに学校を」「カンボジアに井戸を」と日本からの援助が多いのは知っていたが、まさに被援助大国?であることが理解できた。しかしながら援助のあり方について考えさせられる場面が多かった。今回訪問したNGOの活動は「人を育てる」「コミュニティーを育てる」ことに力点を置いている所ばかりで、カンボジア人の視点を重視していることも理解できた。

支援依存症にならないよう、将来的には自立していく方向で活動しているのがわかり、まさに目から鱗が落ちる様な思いである。生徒たちにもその様な視点での「援助」について理解を深めてもらいたいと考えている。

### 3. カンボジアから学んだこと

緑が美しくどこまでも広がる田園風景、物質的には決して十分ではないけれど、何か豊かなものを感じた。本当の豊かさとは何なのだろう。便利で何でもある日本が豊かで、支援される国カンボジアが貧しいと言い切れるのだろうか。便利さや物質の豊かさ、技術の進歩が豊かさのパロメーターであろうか。豊かな緑の中、ゆっくり時間が過ぎていく...それも一つの豊かさではないだろうか。内戦の傷跡、復興に向けての歩み、人材育成...課題は山積しているが、カンボジアで私が感じたことの一つである。

また支援という名のもとに一方的に先進国の価値観を押しつけてはならないと感じた。それがこの国の地方コミュニティーを破壊している可能性がある。改善すべきは改善しなければならないが、グローバル化の光と陰について考えさせられた。

### 4. 研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

まずは英語の授業で活かしていきたい。教材として「カンボジアの地雷除去」が取り上げられている。実際に見た地雷除去の活動、爆破処理、被害に遭い障害を抱えながらもクメール音楽を演奏しながら「地雷撲滅」のために活動をしている人々。現実を変えることはできないけれども、その中で精いっぱい生きている人を紹介したい。

現地でインタビューした生徒(カンボジア日本友好学園)を上飯田中学校で紹介していきたい。カンボジアの生徒の夢や願いを紹介し、その違いや同じ部分を知らせたい。なぜ違うのかを考え

たり、また国が違ってやはり同じ10代、同じ感性を持っていることを知らせたい。可能であるなら、手紙を通して交流をしていきたい。

前述したように本校は外国につながる生徒が多く在籍している。この地域で生活している間は、外国につながっている者はマイノリティーではなく、誰もが自然に受け入れている。しかしながら中学を卒業後、多くの生徒が外の世界に出て行き、様々な問題に直面することが予想される。問題を乗り越える力を少しでも養うことができたらと願っている。また、私は日本人の生徒達も視野に入れている。何年にもわたり外国につながる仲間と自然に生活してきた日本人生徒たちに、外国につながる生徒のバックグラウンドをもっと知ってもらい、日本で暮らす外国人が生活しやすい社会を作っていく力になって欲しいと願っている。これは私自身の勝手な理想であり、方法論についてはもう少し時間をかけなければならないし、学校としての理解や協力も必要である。

#### 5. 研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

普通のスタディーツアーではこれだけの訪問地に行くことはできなかったであろう。短い期間に様々な角度からカンボジアを見ることができ、本当に素晴らしい経験となった。またグループのサイズ、メンバーも良かった。性別や年齢によって感じる場所が違い、それらをシェアすることは私にとっては新鮮で、得るものが多かった。また参加者の専門が違い、それぞれの専門を生かした交流や意見交換ができたと思う。現地ではスタッフの皆さんがスムーズに研修が進むよう調整してくれたので、参加した私達は自分達の研修だけに集中することができた。

また事前にメーリングリストで情報を共有できたのも良かった。しかし直前になって色々確認したいことが出てきたので、直前にも短い時間でもよいので打ち合わせや準備ができたと思った。事前の研修も充実していた。恥ずかしながら「開発教育」について何も知らない状態だったので大変に勉強になった。生徒に対してどのようにアプローチしていったら良いのか、どうしても欲張ってしまいあれもこれもと提示しがちだが、そうではなく精選されたものを効果的に提示することの大切さを学んだ。

#### 6. その他研修全般を通じての感想・意見など

このような機会を与えてくれたJICAには心から感謝しています。たった一枚のA4用紙に10日間の日程がまとめられていましたが、それぞれ奥が深く、考えさせられたり、心に感じるものが多かったです。実施にあたり安養寺さんと小川さんが何ヶ月もメールのやりとりをしながら最善の計画を練ってくださったことがよくわかりました。ありがとうございます。

参加者の皆さんとの出会いも私の財産となりました。大学卒業以来、家族以外の方とこれだけの期間寝食を共にすることはなかったので新鮮でしたし、楽しかったです。また色々な意見交換ができたことが良かったです。皆さんには心から感謝していますし、このメンバーでの交流を続けていけたらと願っています。

#### 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス等

研修を有意義にするために、事前の準備が大切。夏休み前の慌ただしい時で大変かもしれませんが、目標を明確にしながら情報収集されると良いと思います。プログラムは盛りだくさんなので、きちんと記録(メモ)を残し、情報のみではなく自分がその時に感じたことを書き留めていくことをお勧めします。

また他の参加者と感想や意見を交換することをお勧めします。そこから得るものは多かったです。私たちは車中がその時間だったように思います。最後に健康が一番、しっかり食べて、大らかな気持ちでよく笑ってください。